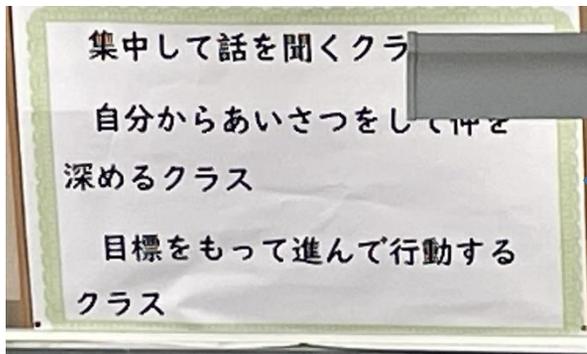


「あたたかな人間関係づくり」を基盤とした教育活動の推進 ～「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成～

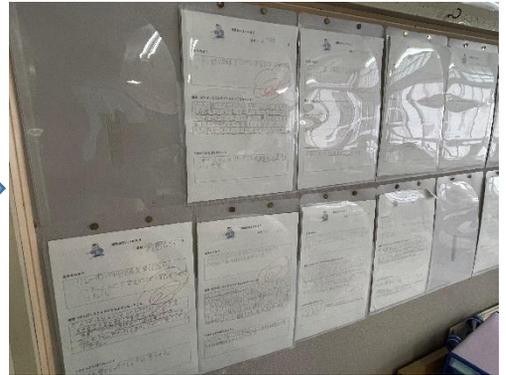
意図的な成功体験と自信の積み上げ

本年度は「自分大好き」「友達大好き」な児童の育成に向け、「3つの言葉」「須恵1スタンダード・学びがい」「目標設定、振り返り」を3つの取組の柱としています。

学校内で日々様々な教育活動が展開されていますが、「どんな時でも」「どこの学年・学級でも」、この3つの柱に即した一貫した指導・支援が行われることが重要です。



連動



各学級においては3つの柱に即した学級目標が設定されています。ですので、学級のあらゆる活動において常に学級目標に立ち返ることが重要です。

ある学級で掲示されている学級目標(一部照明と重なっています)と運動会の振り返りです。運動会では、学級目標である「目標に向かって進んで行動できた」ことがしっかりと振り返ることができています。

この学級では日々の授業においては、学級目標である「集中して話を聞いた」結果どのような知識や技能を習得したのか、その学びの過程を常に振り返ることが重要です。

まれに、「授業が完結していないと振り返りができない」と考えている担任の先生がいます。たとえめあてに達していなくとも、「どこまで達成できているのか」「その達成に向けた学びのよさは何だったのか」「次は何を目標とするのか」振り返ることが、「成功体験と自信の積み上げ」につながる「目標設定と振り返り」の積み上げとつながっていきます。



掲示での
積み上げ



少し視点は変わりますが、左の写真の大きな紙面には、国語科における子ども達の読みが授業において書き込まれています。その書き込みが学級全体の読みの財産となり、右のように掲示として積みあげられています。

子ども達の学びを一つの学級の財産として位置づけ、積み上げていくことも今年の重点にせまる、有効な手立てです。



校内にたくさんの子どもたちの頑張りが視覚化されています。「自分のよさ」「友達のよさ」が子ども達に実感させる効果的な支援です。取組ありがとうございます。

5・6年生の家庭科では、地域ボランティアの活用が行われました。

ボランティアの力を借りながら、子ども達に学習の達成感を味わわせることはとても有効です。

また、実感を伴った「ありがとうございます」のお礼の言葉が言えることも、この取組のよさでもあります。

